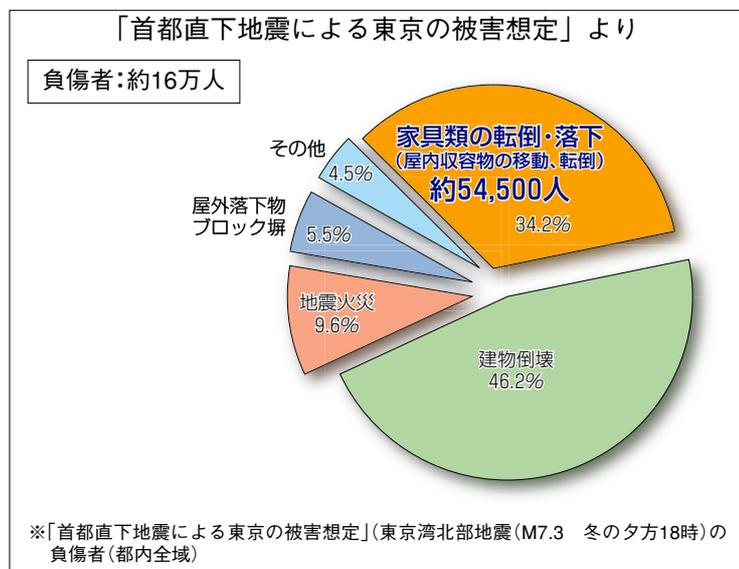
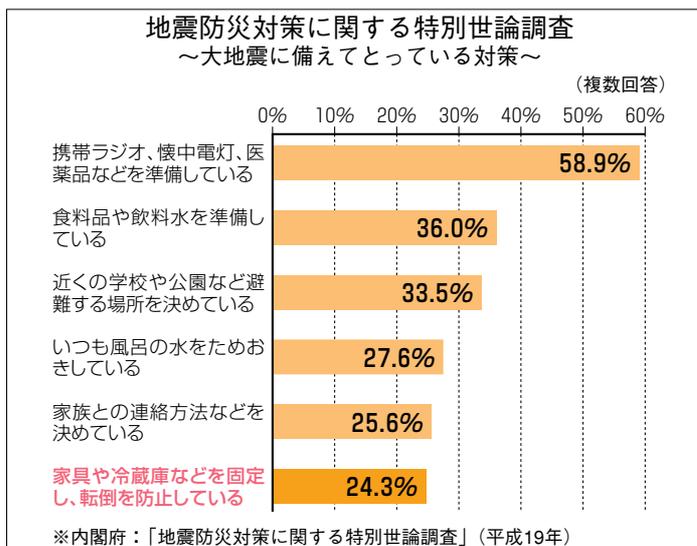


災害への備え（減災）は、どうして必要なのでしょう？

近年、テレビや新聞、雑誌でさかんに防災や減災の取り組みが紹介されています。特に、ご家庭や暮らしの中でのひと工夫で実現できる「家具の転倒・落下防止」については、さまざまなグッズやアイデアが紹介されています。大地震のときには、多くの方が「家具類の転倒・落下」によって負傷してしまうことも判っています。ところが、実際に家具類の転倒防止対策を講じている人はわずか**24.3%**という調査結果があります。

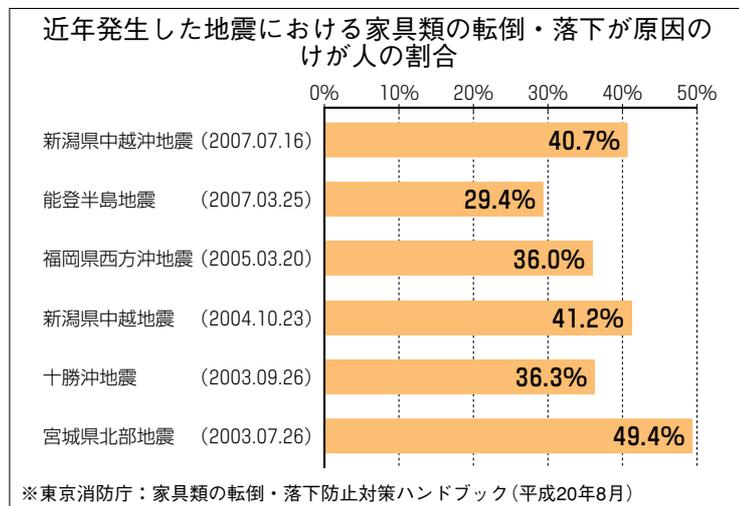


東京都防災会議の「首都直下地震による被害想定」によれば、約16万人の想定負傷者のうち、34.2%（約 54,500人）の人々が「家具類の転倒・落下」によって負傷するだろうとされています。

首都直下地震による被害想定だけではなく、新潟県中越沖地震などの最近発生した地震でも、家具の転倒・落下が原因でケガをする人の割合が高いことが報告されています。（左下図参照）

みなさんは、「家具類の転倒・落下」によって負傷する人の割合がこれほど高いことをご存知でしたか？

家具類の転倒・落下を防ぐ方法はいろいろありますが、建物の構造やお部屋の状況に応じた手立てを行なうことが求められます。少しの時間と工夫によって、あなた自身やご家族を大ケガから守りましょう。



※参考：東京消防庁のホームページ
(http://www.tfd.metro.tokyo.jp/life/bou_topic/jisin/life00.html)

災害から命を守る

災害の怖さを知ろう(地震・室内編)②

まず知ろう

●大地震では、テレビが飛び、タンスがあなたの上に倒れかかってきます

阪神・淡路大震災でも、多くの方が倒れてきた家具の下敷きになって、尊い命を失ったり、大ケガをしました。また、テレビや家具が散乱し、逃げ遅れた人たちもいます。



●窓ガラスや食器は、鋭い破片を床一面に広げ、あなたの行く手をはばみます

素足で歩ける状態ではありません。スリッパやズック靴などをいつでも使えるように置いておきましょう。



●「生き残ってから」のことよりも、「生き残るため／死なないための努力」を先に行いましょう

『緊急地震速報*』を見聞きしても、家の中に安全な場所がなければどうしようもありません。家の中や職場など、まずは、身近な空間の安全点検と必要な対策が最優先です。

※『緊急地震速報』については、裏表紙にも掲載しています。

自分や家族の安全を守るために

- 家具の固定で命を守りましょう。また、万が一倒れてきても安全なように、家具の向きを変更しましょう。
- 寝室や居間や子ども部屋など、お子さんやお年寄りのいる部屋の安全が大切です。まず寝ている間の安全を確保しましょう。
- 出口は複数確保して、地震で建物が歪んでも外に出られるようにしておきましょう。
- 基本的に、『重いものは上に置かない』、『家具は背が低いものを』、『家具や照明はできるだけ作りつけに』しましょう。
- 大きな揺れになると、家具を固定していても、扉が開いたり、引き出しが飛び出したりします。耐震ロック（耐震ラッチ）などをつけましょう。また、ベルトや棧などで食器や本が飛び出さないように工夫しましょう。
- 窓ガラスを強化ガラスに替えたり、食器棚の扉など、家の中のガラス類にフィルムを貼ったりしましょう。
- テレビやパソコンなどには、耐震固定ベルトや耐震マットが有効です。
- 自宅だけでなく、オフィスや学校でも、同じように対策をしておきましょう。

※参考：「わが家の地震対策」静岡県： <http://www.taishinnavi.pref.shizuoka.jp/antearthquake/furniture/index.html>

備えよう

●家具の固定や配置の見直しで「安全空間」を！

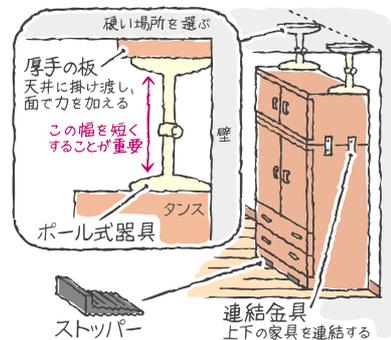
家庭内に「安全空間」をつくっておくことで、災害時に安心して暮らせます。「大地震では、家具は必ず倒れるもの」と考えて、お部屋の総点検を行いましょう。その際にチェック・実践すべき点は次の5つです。まずは**できる部分から**はじめましょう。

- 家具は、倒れる向きを考えて配置しましょう
- 家具部屋を作りましょう（寝室や居間として使用しない）
- **作りつけの家具**を使いましょう
- 寝室には家具を置かないようにしましょう
- 家具を置く場合は、**固定することで転倒防止**をはかりましょう

家具の固定方法にはいろいろありますが、正しいやり方で行わなければ効果は期待できません。

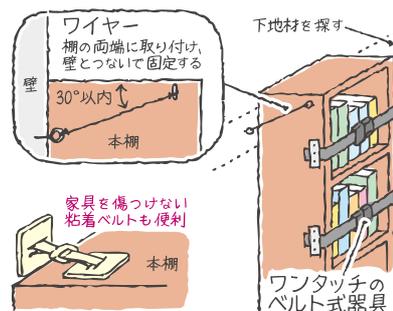
タンスの固定の例

ポール式器具はタンスの奥の方（壁側）で、天井や家具の硬いところに取り付けます。また、天井側だけでなく床の側もストッパーなどで固定し、上下に分かれている家具は連結しておきましょう。



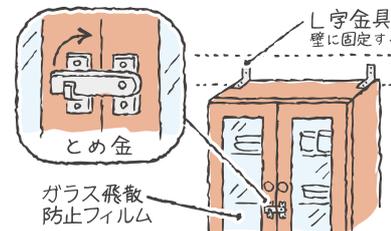
本棚の固定の例

壁の中の硬い所や下地材のあるところを探して、金具やワイヤーなどで固定します。また、本棚の端の硬い部分にヒモやベルトなどを取り付けて中の本が飛び出さないようにしておきましょう。



食器棚の固定の例

壁の中の硬い所や下地材のあるところを探して、金具などで固定します。金具は側板や棧など、家具の丈夫なところに取り付けます。また、観音扉が開かないようにとめ金をつけたり、ガラス飛散防止フィルムを貼ったりして、ガラスや食器が凶器にならないよう工夫しましょう。



引越しや模様替え

引越しやお部屋の模様替えをする時が、お部屋の総点検のチャンスです。寝具と家具の向きをチェックしたり、家具の下にストッパーを敷いたり、テレビやパソコンの下に耐震マットを敷くなどの**ひと工夫**を忘れずに行いましょう。

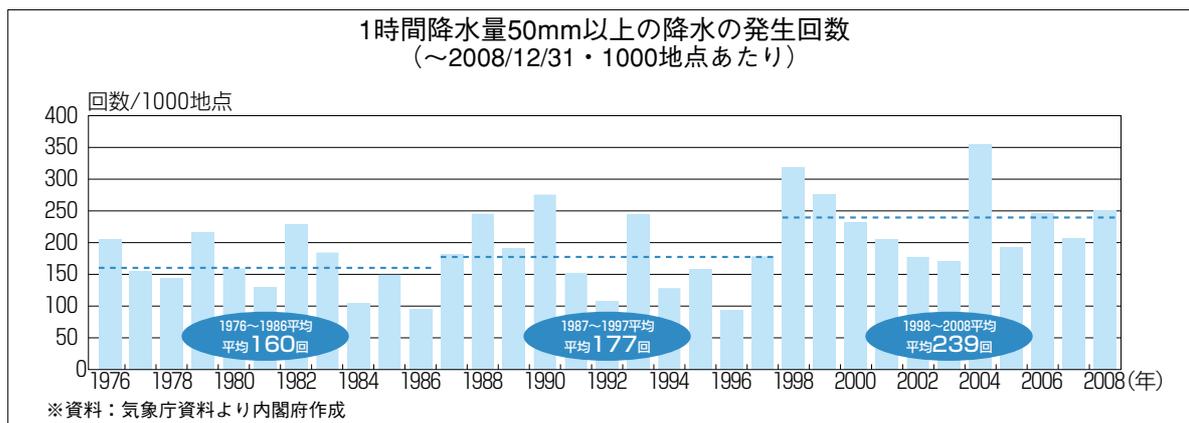


災害から命を守る

正しい知識と日頃の備え(水害編)

集中豪雨による災害

近年、全国各地で大雨の被害が相次いでいます。平成20年にはごく限られた範囲に、短時間に、極めて大量の雨が降る短時間強雨が頻発し、大きな被害をもたらしました。台風だけでなく、こうした大雨にも注意を払いましょう。



まず知ろう

●集中豪雨はどのようなときに発生するの？

- ・日本付近に前線が停滞しているとき（特に梅雨期の終わり頃）
- ・台風が日本へ近づいているときや台風が上陸したとき
- ・大気的不安定な状態が続き、次々と雷雲が発生するとき

●集中豪雨が起これると、どうなるの？

- ・川の水かさが急に増えたり、氾濫したりします
- ・床下・床上浸水が起こったり、道路が冠水したりします
- ・排水溝や下水で処理しきれない水が、地下街や地下室へ流れ込んだりします
- ・地盤がゆるみ、土石流やがけ崩れが発生したりします



備えよう

集中豪雨には、最新の気象情報の入手と日頃からの備えが大切です

- ◆ ラジオやテレビの気象情報に注意しましょう（事前に情報が入手できれば、早めの対策を講じることができます）
- ◆ 停電に備え、懐中電灯はすぐに使えるよう、部屋ごとに置いておきましょう
- ◆ デマにまどわされないよう、正しい情報の入手先を決めておきましょう
- ◆ 河川や用水路、田んぼや低地などの状況を確認しに行くことは控えましょう（水の状況は急変しますので、非常に危険です）
- ◆ 日頃から「避難場所」や「避難経路」を確認しておくことが重要です（自治体などが作成するハザードマップで調べたり、自治体等のホームページなどで確認しておきましょう）
- ◆ 自分が住む地域が、過去に水害を経験した土地かどうか、日頃から調べておきましょう

川がそばになくても『水害』は起こる!?（都市型水害）

都市部では、地面の大半がコンクリートやアスファルトで覆われているため、雨水が地中にしみ込みにくくなっています。しみ込めない雨水は、側溝や下水へ流れ込みますが、側溝や下水の排水能力を超える大量の雨水が流れ込むと、あふれ出したり、マンホールの蓋が水圧で外れたりして、道路に水があふれ出します。

そのまま強い雨が降り続くと、水は低い場所へと流れ込み、地下街や地下室などが水没することもあります。

土砂による災害

集中豪雨や長雨などで地盤がゆるむと土砂災害（土石流や地すべり、がけ崩れなど）が発生します。

国や地方自治体では危険な箇所をあらかじめ想定し、様々な対策を行っていますが、土砂災害が心配される地域に住むみなさんが、危険をいち早く察知し、素早い行動につなげることが被害を軽減するうえで最も大切です。

まず知ろう 土砂災害の前ぶれ(前兆現象)として、どんなことが起きるの？

●土石流の前兆現象



①川の流れがにごり、流木が混ざりはじめる



②雨は降り続けているのに川の水位が下がる



③山鳴りがする

●地すべりの前兆現象



①沢や井戸の水がにごる



②地割れができる



③斜面から水が噴き出す

●がけ崩れの前兆現象



①がけから小石がパラパラと落ちてくる



②がけから水が湧き出ている



③がけに割れ目が見える

備えよう 土砂災害には、警戒情報と素早い行動、日頃からの備えが大切です

- ◆ ラジオやテレビ、地元を通じて「土砂災害警戒情報」を入手したら、いち早く避難しましょう
- ◆ 「土砂災害警戒情報」が出ていなくとも、上記のような前ぶれに気付いたら、すぐに周りの人たちと安全な場所に避難し、自治体や警察、消防などに通報しましょう（「無駄足でも構わない」くらいの気持ちで、すぐに避難しましょう）
- ◆ 早めの避難のためにも、日頃から「避難場所」や「避難経路」、近所の「危険箇所」を確認しておくことが重要です（自治体が作成するハザードマップで調べたり、自治体等のホームページなどで確認しておきましょう）